

高等学校地理歴史科（日本史 B）学習指導案『2020 年度共通テスト解説』

地歴公民科 横山泰三

1 はじめに

パワーアップ研修(中堅教諭等資質向上研修)として、3回の研究授業研修を行った。その中でも3回目に実施した学習指導案を掲載する。今年度は大学入試共通テストの第1回目であり、今までのセンター試験と違い問題数は36問から32問に減ったものの、史料(資料)の分量が増加し、読み解いて解答するまで相当な時間がかかる。これらの新傾向に対して、どのように解答していけば良いのか、またどのような学習が必要になるのか、その対策と学習方法を指導案にまとめた。

2 研究方法

50分間で解説できる問題数は限られている。第1問の1, 2, 3と第2問の7, 8, 9, 10, 11を抜粋して解答方法を記載した。解答方法は大きく分けて三つに分類できる。1つ目は、教科書の文章を隅々まで読解する方法。2つ目は、単元(テーマ)毎にまとめて、理解する方法。3つ目は歴史用語を正しく理解する方法である。今まで学習した、教科書、資料集、授業内容を用いて、問題の全てが解答できることを明らかにしていく。

3 研究のねらい

授業で習った学習内容及び使用教材で共通テストのほとんど全ての問題が解答できることを証明し、生徒の共通テストに対する不安を無くし、自信を深めさせることがねらいである。現在学習していることを継続することで必ず学力が身につくことを理解させ、生徒のやる気を喚起する材料としたい。

4 おわりに

解説の1-1と2-8は授業で板書した内容のダイジェスト版を、再度黒板に書いて解説した。授業の板書内容も本紀要に掲載する。抜粋した問題だけで、大学入学共通テストの傾向をつかむことができる。基本は、センター試験と同じ学習方法で対処できる。しかし、単純に知識を問う問題が無くなり、思考力が試される問いが増えており、普段の授業から、歴史的事象について考えさせることに慣れさせておかなければならず、また、高得点を目指すなら共通テスト対策の演習に時間をかける必要がある。

高等学校地理歴史科（日本史B） 学習指導案

実施日：令和3年2月15日（月）1校時

実施学級：2年1組・2組

（男子7名 女子7名 計14名）

実施教室：2年1組

指導者：横山泰三

使用教材：『詳説日本史B』山川出版社

『新詳日本史』浜島書店

『新日本史要点ノート(標準編)』啓隆社

『20201年度共通テスト(日本史B)』

1 単元名 「2021年度共通テスト(日本史B)」

2 単元について 「2021年度共通テスト」(～近世)を授業で習った内容をどのように活かして解答すれば良いのかを理解させる。また従来のセンター試験と比較することで、新傾向の特徴を説明する。

3 生徒観 2年1組と2組は文系と理系の混合クラスである。現時点では生徒全員が大学進学を目標としている前提で授業を行っており、生徒個々の学力には差があるが、クラス全体の日本史に対する興味関心は高く、授業への取り組み方は素晴らしい。今年度はセンター試験から共通テストへと転換した年であり、今後の受験に役立てるため、受験対策に特化した内容の授業をすることで、大学入試に対する意識を高めていきたい。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
事前に「2021年度共通テスト日本史B」を第1問から第4問(近世)まで解かせた上で答え合わせ及び訂正をさせる。	正解した問題は、理解した上で正解だったのか、また、間違えた問いはなぜ分からなかったのか考えさせる。	初見の史料(資料)の意味をよく考えて理解する必要がある。また今まで学習した史料(資料)で類似のものがないか探してみる。	共通テストの内容はほぼ全て教科書に掲載されていることを確認し、基本用語の意味を正しく理解することの重要性を理解する。

5 本時の計画

(1) 授業名 「2021年度共通テスト 日本史B」解説

(2) 目標 共通テストを今の知識で解答できることを理解させて、自信を深めさせる。

(3) 学習指導上の工夫 電子黒板を用いて、モニター上の共通テストの問題を解説し、過去に書いた板書も改めて板書し復習することで、授業で学習したことが通用することを実感させていく。

(4) 本時の展開 「2021年度共通テスト(日本史B)」

	生徒の活動	形態	教師の活動	評価規準
導入 5分	1. 共通テストの正答率 2. センター試験から共通テストへの変更点 3. 本時の学習目標の確認 第1問の <u>1,2,3</u> 第2問の <u>7,8,9,10,11</u>	一斉	・生徒(14人)の共通テストの正答数を確認し正答数を黒板に書き出して問題の正答率を確認する。既習の問題は <u>1.2.3.7.8.9.10.11,12,13,14,15,16.17.18.19</u> ・本時の学習目標(解説する問題(下線部))を黒板に明示する。	・共通テストの感想を積極的に述べているか。 【関・意・態】
展開 1 20 分	4. 第1問 テーマ史「貨幣の歴史」	一斉	・電子黒板に共通テスト第1問を映す。 ・授業の既習内容(板書)を書き出し、既に学習した内容の活用の仕方を解説する。 問1-1の解説 (既習の)板書内容を参照 問2-2の解説 新詳日本史 p 118 を参照 問3-3の解説 詳説日本史 p 138 を読む →教科書のゴシック文字以外の文章が試験に出るのはセンター試験と同じである。 ※センター試験との変更点は、空欄に適する語句を答える問題が無くなったこと。 →2020年度センター試験第1問参照。	・板書をノートにまとめているか。 【関・意・態】 ・資料から内容を読み取ろうとしているか。 【資料活用】 ・既習内容の活用の方法を判断できているか。 【思・判・表】
展開 2 20 分	5. 第2問 テーマ史「文字使用の歴史」	一斉	・電子黒板に共通テスト第2問を映す。 ・授業の既習内容(板書)を書き出し、既に学習した内容の活用の仕方を解説する。 問1-7の解説 新詳日本史 p 2 を参照 問2-8の解説 (既習の)板書内容を参照 問3-9の解説 abは文章読解力 cdは知識 →文章読解力の問いは、センター試験必題 問4-10の解説 (既習の)板書内容を参照 問5-11の解説 やや難問。歴史用語の意味を深く正しく、理解する必要がある	・板書をノートにまとめているか。 【関・意・態】 ・資料から内容を読み取ろうとしているか。 【資料活用】 ・既習内容の活用の方法を判断できているか。 【思・判・表】
まとめ 5分	6. 本時の復習によって、共通テストに必要な知識・理解・技能の活用方法を理解する。	一斉	①基本用語の意味を正しく理解すること ②教科書の本文を注意深く読むこと。 ③単元ごとのつながりを意識し、政治、外交、文化などテーマごとに、一つの流れを意識して覚えていくことが必要であることを、理解させる。	・説明をノートにメモするなど、必要な情報をまとめているか。 【関・意・態】

日本史 B

(解答番号 ~)

第1問 高校の授業で「貨幣の歴史」をテーマに発表をすることになった咲也さんと花さんは、事前学習のために博物館に行った。博物館での二人の会話A・Bやメモなどを読み、下の問い(問1～6)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 18)

A

咲也：2024年には新しい紙幣と500円硬貨が発行されるけど、キャッシュレス化が進んでいるのに、今さら貨幣を発行する意味があるのかな。そもそも古代の銭貨は、何のために発行されたのか、すこし調べてみたよ。

咲也さんのメモ

古代の銭貨はなぜ発行されたのか？				
	7世紀後半	8世紀前半	10世紀半ば	
銭貨発行	■富本銭	■和同開珎	…複数回の銭貨発行あり… ■古代最後の銭貨発行 …古代には、米や布・絹なども貨幣として通用している…	
都城造営	藤原京	平城京	長岡京	平安京

まとめ

- ・唐の制度にならい、国家が銭貨を鑄造・発行した。
- ・銭貨の流通について、国家は自ら鑄造したものしか認めなかった。
- ・国家が発行した銭貨は、都城の造営をはじめ、様々な財政支出に用いられた。

日本史B

花 : なるほど、銭貨とともに米や布・絹などが貨幣として使われてきたのか。

古代国家は、銭貨の使用を促す政策を出し、流通を図ったんだね。

咲也 : でも展示をみると、材料となる銅の産出量が減って、銭貨は小さく粗悪になっているね。そうして国家の発行する銭貨に対する信用が失われて、発行は中止されたんだね。

花 : あれ? でもここに展示してあるのは^a鎌倉時代の市場の図だよ。銭貨を扱いやすく束ねた銭さしがみえるね。

咲也 : ^b中世の権力者はこうした銭貨の流通にどう対応していたんだろう。

問 1 咲也さんのメモに基づく次の文 X・Y と、それに最も深く関連する 8 世紀前半の法令 a～d との組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

X 国家は、自ら鑄造した銭貨しか流通を認めなかった。

Y 国家が発行した銭貨は、様々な財政支出に用いられた。

8 世紀前半の法令 (大意)

a 運脚らは銭貨を持参して、道中の食料を購入しなさい。

b 私に銭貨を鑄造する人は死刑とする。

c 従六位以下で、銭を 10 貫^{じゆくゐ}(注)以上蓄えた人には、位を一階進める。

d 禄の支給法を定める。(中略)五位には^{あしぎぬ}絶 4 匹、銭 200 ^{もん}文を支給する。

(注) 貫：銭の単位。1 貫 = 1000 文。

① X — a Y — c

② X — a Y — d

③ X — b Y — c

④ X — b Y — d

日本史B

問 2 下線部②について、二人が見ていたのは次の図1である。図1に関して述べた下の文 a ~ d について、最も適当なものの組合せを、下の①~④のうちから一つ選べ。 2

図1 『一遍上人絵伝』(清浄光寺所蔵, 部分)



銭さし



参考写真：江戸時代の銭さし

- a 当時の日本では、宋などの銭貨が海外から大量に流入しており、この場面のような銭貨の流通は一般的であったと考えられる。
- b 当時の日本では、国家による銭貨製造は停止しており、この場面のような銭貨の流通は例外的であったと考えられる。
- c この場面に描かれている建物は、頑丈な瓦葺きの建築である。
- d この場面には、銭貨のほかにも、古代に貨幣として通用していたものが描かれている。

① a・c

② a・d

③ b・c

④ b・d

日本史B

問 3 下線部①に関連して、中世の流通・経済に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

3

X 戦国大名だけでなく、室町幕府も撰銭令を出した。

Y 明との貿易をめぐり、細川氏と大内氏が寧波で争った。

① X—正 Y—正

② X—正 Y—誤

③ X—誤 Y—正

④ X—誤 Y—誤

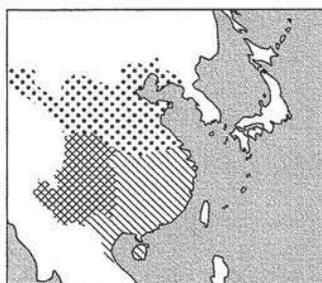
日本史B

第2問 「日本における文字使用の歴史」をテーマとする学習で、Aさんは「文字使用の開始」について、Bさんは「文字使用の展開」について調べ、授業で発表することになった。それぞれの発表要旨を読み、下の問い(問1～5)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 16)

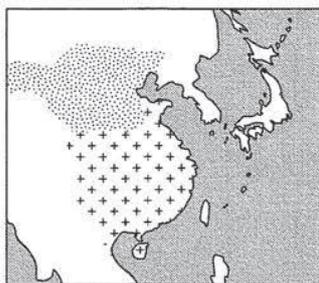
Aさんの発表要旨

日本列島で最初に使われた文字は漢字である。中国の歴史書には、紀元前1世紀頃から、倭人が中国に使者を派遣したと書かれている。㉔前近代における東アジア諸国間の外交においては、正式の漢文体で書かれた国書をやりとりするのが原則で、倭国も漢字の使用を求められたと考えられる。一方、㉕日本列島において、外交以外の場面で文字が使用されるようになるのは、確実には5世紀まで下る。それ以前についても、漢字らしきものの書かれた土器などが発見されているが、それが文字であるか記号であるかに関しては、見解が分かれている。

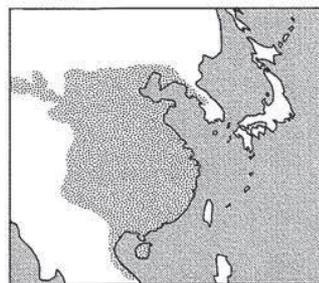
問1 Aさんは下線部㉔に関して、東アジア諸国の位置関係を把握しておくことが必要であると考えた。そこで、1世紀、3世紀、5世紀における中国諸王朝の領域が示された次の地図Ⅰ～Ⅲを用意した(模様のある部分が中国諸王朝の領域である)。この地図Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 7



地図Ⅰ



地図Ⅱ



地図Ⅲ

① I — II — III

② I — III — II

③ II — I — III

④ II — III — I

⑤ III — I — II

⑥ III — II — I

日本史B

問 2 Aさんは下線部①の説明に当たって、「无利互^{むりて}」が保持したと考えられる、次の江田船山古墳出土鉄刀の銘文(史料)を取り上げた。そして、人名表記の仕方に注目し、渡来人と考えられる「張安^{ちようあん}」のみ、姓(張)^{せい}+個人名(安)となっており、他の倭人とは表記方法が違うことを発表した。この史料に関して述べた下の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①~④のうちから一つ選べ。 8

史料(下線を付した箇所は人名)

天^{あめ}の下治らしめしし獲□□□^し鹵(注1)大王の世、典曹^{てんそう}に奉事^{ほうじ}せし人(注2)、名は無利互^{むりて}。八月中、大鉄釜を用い、四尺の廷刀^{ていとう}を并わす(注3)。(中略)刀を作る者、名は伊太和^{いたわ}、書する者は張安也。

(注1) 獲□□□鹵：稲荷山古墳出土鉄剣銘の「獲加多支鹵」と同一人物とされる。

(注2) 典曹に奉事せし人：文官として大王に仕えてきた人。

(注3) 大鉄釜を用い、四尺の廷刀を并わす：「鉄刀の材料として大鉄釜を使用し、その鉄を混合して4尺の刀を製作する」という意味とされる。

X 「无利互」「伊太和」は、漢字の音を借用した表記である。

Y この史料は、稲荷山古墳出土鉄剣銘と合わせて、当時のヤマト政権の勢力が関東地方から九州地方まで及んでいたことを示す。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

日本史B

Bさんの発表要旨

日本で漢字が行政の場でも広く使用されるようになるのは、7世紀後半以降のことである。㉓それを顕著に示すものとして、7世紀後半になってから出土点数の激増する木簡が挙げられる。その後、㉔日本独自の文字として、9世紀頃に平仮名と片仮名が生み出され、10世紀から11世紀にかけて定着していく。ただし、日本独自といっても、平仮名は漢字の草書体を基にし、片仮名は漢字の一部を使うなど、漢字に由来するものであった。公式の場においては、あくまでも漢字が正統なものと意識され続けた。

問3 Bさんは下線部㉓の説明に当たって、次の二つの事例を紹介した。これらの事例を踏まえ、7世紀後半の日本における漢字文化の展開とその背景に関して述べた下の文a～dについて、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。

9

事例1 7世紀後半の木簡に、「移(ヤ)」、「里(ロ)」、「宜(ガ)」など、同時代の中国では既に使われなくなった漢字音の使用が見られる。

事例2 7世紀後半の木簡に見える、倉庫を意味する「椋」という字は、中国では樹木の名を指す字であった。高句麗では倉庫を「桴京」といい、「桴」の木偏と、「京」を合体させた字が「椋」とされた。この「椋」という字は百済・新羅でも倉庫の意味で用いられていた。

- a 7世紀後半の日本には、古い時代の中国における漢字文化の影響は見られない。
- b 7世紀後半の日本には、朝鮮諸国における漢字文化の影響が見られる。
- c 留学から帰国した吉備真備らは、先進的な文化・文物をもたらした。
- d 白村江の戦いの後、亡命貴族らが日本に逃れてきた。

- ① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

日本史B

問 4 Bさんは下線部①に関して、「国風文化」について次のX・Yのような評価があると述べた。Xの根拠をa・b、Yの根拠をc・dから選ぶ場合、その組合せとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 10

評価

X 前代の「唐風」を重んじる文化に対し、日本独自の貴族文化が発達した。

Y 「国風」と称されているが、中国文化の影響も見られる。

根拠

- a 大学では、儒教や紀伝道の教育がなされた。
- b 勅撰の漢詩集に代わって、勅撰の和歌集が編まれた。
- c 貴族は、輸入された陶磁器などを唐物として愛用した。
- d 貴族は、白木造・檜皮葺の邸宅に住み、畳を用いた。

- | | | | |
|---------|-------|---------|-------|
| ① X — a | Y — c | ② X — a | Y — d |
| ③ X — b | Y — c | ④ X — b | Y — d |

問 5 二人の発表を受けて、クラス全員で古代における文字使用の歴史について議論し、次の①～④のようなまとめをした。この①～④のうち、誤っているものを一つ選べ。 11

- ① 日本列島における文字の使用は、倭国が中国の冊封体制から離脱したことによって始まった。
- ② 古墳から出土した、文字が刻まれた5世紀の刀剣には、その刀剣の保持者が大王に奉仕したことを記念する意味合いが込められている。
- ③ 日本における文字の使用は、律令制度が導入され、行政において文書が用いられるようになったことで本格化した。
- ④ 平安時代、女性は仮名文字を使って文学作品を生み出し、その代表的な作品として、紫式部の著した『源氏物語』がある。

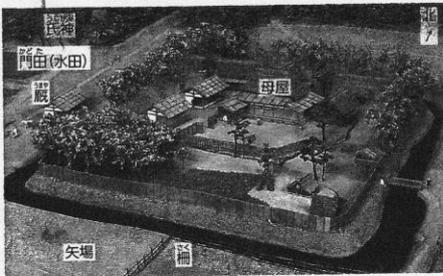
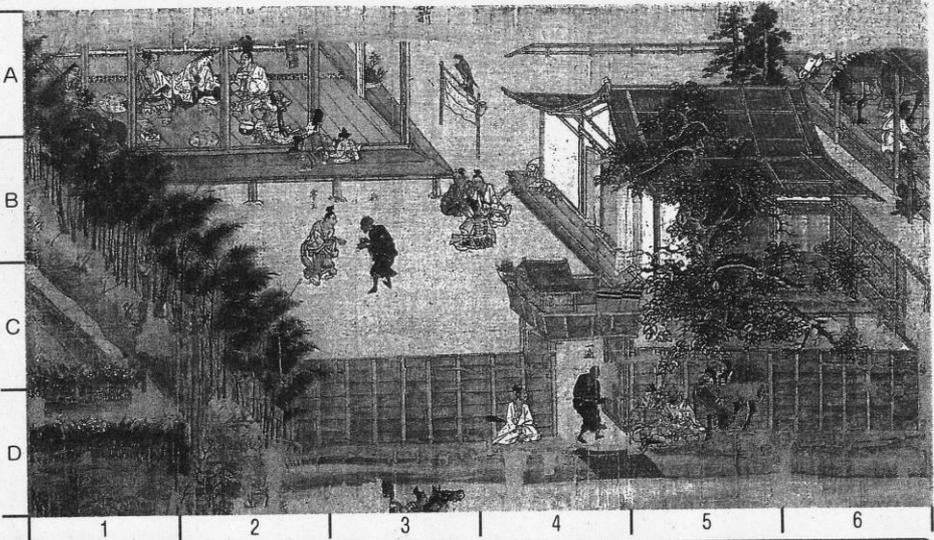
読み取り

中世の武士の館を
読み取りましょう

立地条件
館のつくり
付近の様子
人々や動物などに着目
しましょう。下の模型
も参考にしましょう。

◎**筑前国武士の館** (一遍上人絵伝) 一遍上人絵伝は、時宗の開祖一遍(1239~89)の生涯を描いた絵巻物。1299(正安1)年作成。
 図 神奈川 清浄光寺(遊行寺)蔵 第4巻 38.2×1108.0cm(部分)

◎**東国武士の館の復元模型** 発掘の成果や絵巻物を参考につくられた。東西約60m、南北約75m、堀の幅は2~5mと想定。
 千葉 国立歴史民俗博物館蔵



一遍と蒙古襲来

一遍が九州で布教したのは1276(建治2)年、文永の役(→p.121)の2年後であった。大分県別府市の鉄輪温泉にある永福寺(右写真)は、豊後の守護大友頼泰が一遍に寄進した寺が起源とされる。一遍は、その近くに蒸湯という岩室の風呂を開き、文永の役で負傷した人々を治療したという。



中世の市を読み取りましょう

立地条件・建物・交易物・人々などに着目
しましょう。



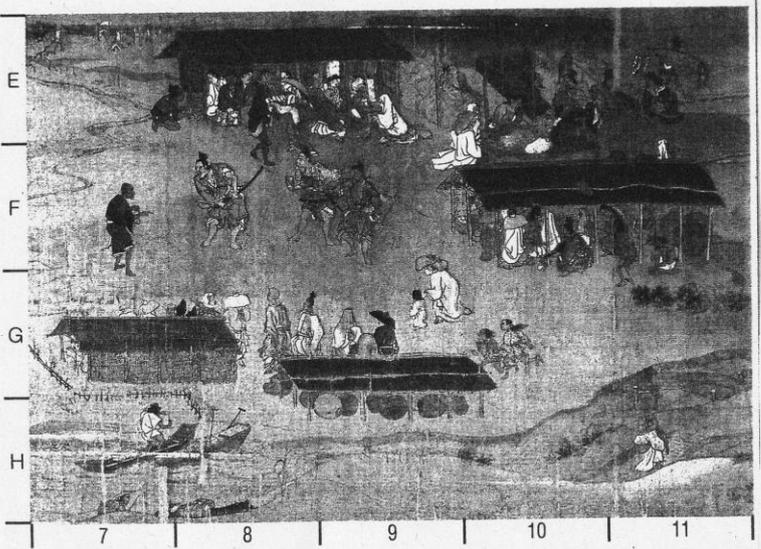
◎**備前国福岡(荘)の市** (一遍上人絵伝) 図 神奈川 清浄光寺(遊行寺)蔵 第4巻 38.2×1108.0cm(部分)



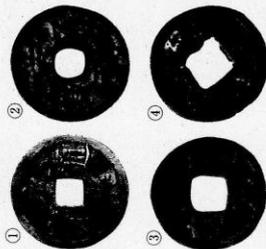
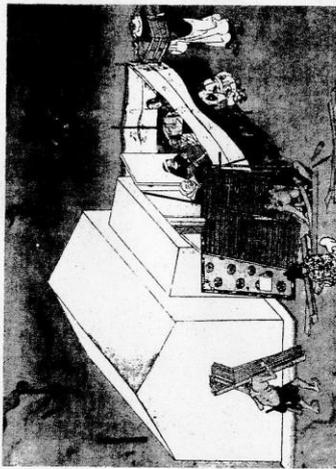
◎**信濃国伴野荘** (一遍上人絵伝) 市がない日の様子。 図 第4巻(部分)

関連ページ

武士の生活と社会・経済 p.119
読み取り例 p.119
蒙古襲来 p.121 鎌倉新仏教 p.124



火事で残った土蔵(香白瀬頭縁起、部分) 土倉は、酒屋と並んで鎌倉時代の米から高利貸をおこなったり、荘園領主の代官となつて年貢を請け負つたりして、大きな富を得るようになった。その土蔵も火事の災難にしばしばあつたが、すぐに再建された。(宮内庁三の丸尚蔵館蔵)



① 明鏡と私鑄鏡 室町時代には水菜通宝①・洪武通宝②・宣徳通宝などが用いられた。水菜通宝などの明鏡が輸入されると、粗悪な私鑄鏡(びた鏡)③④がつかうられるようになった。(日本銀行貨幣博物館蔵)

な流通が阻害された。そのため幕府・戦国大名などは悪銭と精銭の混入比率を決めたり、一定の悪銭の流通を禁止するかわりに、それ以外の銭の流通を強制する撰銭令をしばしば発布した⑤。

貨幣経済の発達には金融業者の活動がうながした。当時、酒屋などの富裕な商工業者は、土倉と呼ばれた高利貸業を兼ねるものも多く、幕府は、これらの土倉・酒屋を保護・統制するとともに、営業税を徴収した。

地方産業がさかんになると遠隔地取引も活発になり、遠隔地商人のあいだでは為替手形⑥の一種である割符の利用もさかんにおこなわれた。海・川・陸の交通路が発達し⑦、廻船の往来もひんばんになった⑧。京都・奈良などの大都市や、兵庫・大津などの交通の要地には問屋が成立し、多量の物資が運ばれる京都への輸送路では、馬借・車借と呼ばれる運送業者も活躍した。

① 精銭の減少にともない、16世紀後半になると、西日本では米や銀も貨幣として使用されるようになった。
 ② 交通・運輸の増加に注目した幕府・寺社・公家などが、水陸交通の要地につきつきと問所を設け、問鏡・津料を徴収し、交通の大きな障害となった。
 ③ 「兵庫北関入船積帳」(→p.153)やその他の史料によると、1445(文安2)年の1年間に瀬戸内海の各港から、さまざまな荷を積んで兵庫湊に出入りした船の総数は、2700隻以上におよんだ。

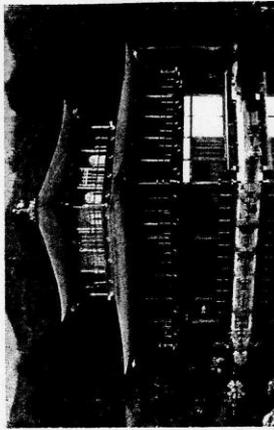


問所を通る馬借(「石山等縁起巻巻」部分) 大津は京都に近く、古くからここを通る年貢や商品の車は多かつた。図の下方には、荘園の年貢を京都方面の領主のもとに運搬する馬借が、大津の問所を通うるところが描かれている。(石山寺蔵、滋賀県)

室町文化

室町時代には、まず南北朝の動乱期を背景とした南北朝文化が生まれ、ついで足利義満の時代に北山文化が、足利義政の時代に東山文化が形成された。

この時代の文化の特徴は、幕府が京都におかれたことと東や東アジアとの活発な交流にともなう、武家文化と公家文化、大陸文化と伝統文化の融合が進み、また当時成長しつつあった惣村や都市の民衆とも文化交流して、広い基盤をもつ文化が生み出されたことである。



簡菴寺金閣(上)と慈照寺鋪閣(左) 京都北山にある義満の北山殿は、彼の死後、簡菴寺となつたが、建物の多くは失われた。金閣は当時のものが第二次世界大戦後まで残っていたが、1950(昭和25)年に焼失し、55年に再建された。伝統的な寝殿造風の様式がまだ色濃く残っている。一方、京都東山に義隆が営んだ慈照寺の銀閣は、書院造風を基調とした新しい住宅建築の様式となっている。(京都府)



2

原始・古代の日本と東アジア

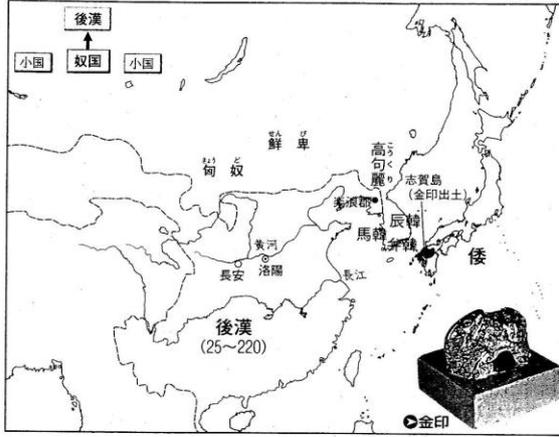
— 当時の交通路(推定も含む) — → 朝貢関係 ← 対立関係

世界

日本	朝鮮	中国	事項
弥生	新	後漢	57 倭の奴国の王、後漢に遣使
三韓	後漢	後漢	107 倭国王帥升等、後漢に遣使
百濟	魏	魏	239 女王卑弥呼、魏に遣使
高句麗	晋	晋	266 倭の女王、晋に遣使
百濟	百濟	百濟	372 百濟王、倭王に七支刀を贈る
新羅	新羅	新羅	391 倭、百濟・新羅を破る(好太王碑)
古墳	宋	南朝	421 倭王讚・珍・濟・興、南朝の宋に遣使(~462)
古墳	宋	南朝	478 倭王武、宋に遣使
古墳	北齊	北齊	512 百濟、加耶西部の支配を確立(~513)
古墳	梁	梁	527 磐井の乱
古墳	梁	梁	538 仏教公伝(552年説も)
古墳	陳	陳	562まで 加耶諸国滅亡
飛鳥	隋	隋	607 遣隋使小野妹子派遣
飛鳥	唐	唐	630 第1回遣唐使派遣
飛鳥	唐	唐	663 白村江の戦い
飛鳥	唐	唐	676 新羅、朝鮮半島統一
飛鳥	唐	唐	717 阿倍仲麻呂ら入唐
飛鳥	唐	唐	727 初めて渤海使が来日
飛鳥	唐	唐	753 唐より鑑真来日
飛鳥	唐	唐	759 日本で新羅攻撃計画
飛鳥	唐	唐	804 最澄・空海ら入唐
飛鳥	唐	唐	894 遣唐使の派遣を停止
平安	高麗	高麗	936 高麗、朝鮮半島統一
平安	宋	宋	983 齋然、宋の太宗に謁見
平安	宋	宋	1019 力伊の入寇

- 朝貢(↑は期間)
▲ 朝貢し冊封を受ける
- 地図 1 —
後漢に朝貢。光武帝、金印「漢委奴国王」を下賜。冊封(『後漢書』東夷伝)
- 地図 2 —
魏に朝貢。魏、「親魏倭王」の称号と銅鏡などを下賜。冊封(『魏志』倭人伝)
- 地図 3 —
倭の五王が南朝の宋に朝貢。宋は求めに応じて安東(大)將軍倭(国)王とする。冊封(『宋書』倭国伝)
- 地図 4 —
南北朝を統一した隋に朝貢。冊封は受けず。
- 地図 5 —
唐に朝貢。冊封は受けず。日本は新羅・渤海を朝貢国として扱う。新羅との関係悪化により、遣唐使の航路を北路から危険な南路に変更。
- 地図 6 —
宋に朝貢せず。私貿易が行われる。

1 1~2世紀の東アジア —金印「漢委奴国王」— (→p.39)



2 3世紀の東アジア —邪馬台国の女王— (→p.39)



3 4~5世紀の東アジア —倭の五王— (→p.45)



●東アジアの国際秩序

皇帝=「中華」		
周辺国は、皇帝の徳をしたって、来貢する。	思想的側面 (*中華思想)	文明の中心である中華の皇帝が、徳をもって諸民族を感化する。
皇帝の臣下として、定期的に使節を派遣する。中国の承認を得ることによって、自国内や周辺国同士の間で、優位に立てる。	外交的側面 (冊封体制)	周辺国の長を、王に任命する(「冊封」)。周辺国を従えることにより、みずから大国としての威徳を示す。
定期的に土地の産物などの貢物を献上する。	貿易的側面 (朝貢貿易)	貢物以上の下賜品(返礼品)を与える。
周辺国=「夷狄」東夷・西戎・北狄・南蛮から成る。		

解説 中華思想を背景にした東アジアの国際秩序は、周辺国の中国への従属を前提にした外交関係である。同時に貿易関係でもあり、貢物以上の下賜品が得られる周辺国には、大きな利益があった。この国際秩序を通じて、唐の時代には、漢字・儒教・仏教・律令などを共通項とする、東アジア文化圏が形成された。

天武種... 錢 (第1問)

◇ 平城京と 地方社会

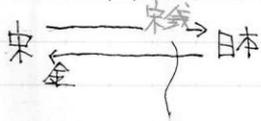
708年 ① 和同開珎 } 本朝十二錢
元明天皇 }
村上天皇 ② 乾元大宝 } 錢

711年

↑ 物々交換が主流
* 唐錢銀貨

◇ 平氏政権

一日宋貿易一



↓ (主に中国銭)
貨幣経済の発展

◇ <室町時代> 用銭

* 撥銭令

<江戸時代> 寛永通宝

↓ (国産通貨)

[第2問] 阿以申江於「万葉集」
あいうえお

◇ 東アツア諸国との交渉

渡来人 (漢字・仏教・医易暦) を伝えた
↳ 百濟の王仁 が 『千字文』 『論語』 を伝えた
↳ 漢字の使用 『帝紀』 『旧辞』

◇ ヤマト政権と政治制度

支那書 } (埼玉県) 稻荷山古墳 鉄剣銘 } 「獲加多支鹵大王」
(熊本県) 江田船山古墳 鉄刀銘 }
隅田人幡(官)人物画優鏡

◇ 国風文化

「かな文字」の飛達
905年 『古今和歌集』